

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年2月12日

【四半期会計期間】 第6期第3四半期(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

【会社名】 セガサミーホールディングス株式会社

【英訳名】 SEGA SAMMY HOLDINGS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 里見 治

【本店の所在の場所】 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル

【電話番号】 03(6215)9955(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務担当部長 清水 俊一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル

【電話番号】 03(6215)9955(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務担当部長 清水 俊一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第5期 第3四半期 連結累計期間	第6期 第3四半期 連結累計期間	第5期 第3四半期 連結会計期間	第6期 第3四半期 連結会計期間	第5期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高 (百万円)	309,018	285,336	108,571	130,941	429,194
経常利益又は 経常損失( ) (百万円)	5,009	27,636	3,475	28,365	6,636
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失 ( ) (百万円)	10,840	16,945	1,286	23,268	22,882
純資産額 (百万円)			254,358	250,692	242,532
総資産額 (百万円)			449,050	439,132	423,938
1株当たり純資産額 (円)			929.90	917.74	882.47
1株当たり四半期純利 益又は四半期(当期)純 損失( ) (円)	43.03	67.27	5.11	92.37	90.83
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)					
自己資本比率 (%)			52.2	52.6	52.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	20,577	30,734			32,199
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,713	10,910			936
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	117	273			7,653
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)			124,136	143,352	123,385
従業員数 (名)			7,259	6,376	6,856

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第5期第3四半期連結累計期間及び第5期第3四半期連結会計期間並びに第5期においては1株当たり四半期(当期)純損失であり、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第6期第3四半期連結累計期間及び第6期第3四半期連結会計期間においては希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(名)	6,376 (7,796)
---------	------------------

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(名)	98 (8)
---------	-----------

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期会計期間の平均雇用人員であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
遊技機事業	52,292	+37.8
アミューズメント機器事業	14,823	19.7
アミューズメント施設事業	427	0.7
コンシューマ事業	24,204	+25.2
その他事業		
合計	91,748	+20.5

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当グループでは遊技機事業については、生産に要する時間が短時間であるため、基本的に受注動向を見ながら生産を行っておりますが、製品のライフサイクルが短い理由で販売期間が非常に短く、発売の初期段階に出荷が集中することから、販売政策上、初期受注に対しては見込み生産を行っており、かつ、その数量は通常販売数量の大半を占めております。また、アミューズメント機器事業については、生産に要する期間が比較的長期に亘るため、見込み生産を行っております。なお、コンシューマ事業のゲームソフトにおいて極めて少量の受注生産はあるものの、受注状況の記載は営業の状況に関する実態を表さないため、省略しております。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
遊技機事業	57,336	+39.7
アミューズメント機器事業	15,147	2.5
アミューズメント施設事業	12,499	27.5
コンシューマ事業	45,275	+32.8
その他事業	682	+1.8
合計	130,941	+20.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、一部持ち直しの動きが見られたものの、急激な円高やデフレ進行の影響等を受けて企業収益は圧迫され、それにより雇用情勢が低水準に留まり、個人消費も低迷が続くなど、未だなお厳しい状況が続いております。

このような状況の中、遊技機業界におきましては、多様なゲーム性を持ったパチンコ遊技機の入替が堅調に推移いたしました。一方、パチスロ遊技機におきましては、斬新なゲーム性を搭載した一部の遊技機が評価を受けたものの、市場を本格回復させるまでには至らず、今後も市場活性化に向けたさらなる取り組みが期待されています。

アミューズメント業界におきましては、依然厳しい環境が続いており、今後の市場活性化に向けては、ファミリー層やライトユーザー層など多様化する顧客ニーズに応じた、市場を牽引する斬新なゲーム機の開発、供給等が期待されています。

家庭用ゲームソフト業界におきましては、個人消費の低迷等によって、主に欧米市場での需要が低調に推移いたしました。今後は、価格見直しを実施された現世代機のさらなる普及拡大、及びそれらに伴う市場の活性化が期待されています。

このような経営環境のもと、当第3四半期連結会計期間における売上高は1,309億41百万円（前年同期比20.6%増）、営業利益は291億82百万円（前年同期比505.3%増）、経常利益は283億65百万円（前年同期比716.1%増）となりました。固定資産売却益など3億99百万円の特別利益を計上した一方で、減損損失など特別損失を48億97百万円計上した結果、四半期純利益は232億68百万円（前年同期は四半期純損失12億86百万円）となりました。

当第3四半期連結会計期間における事業の種類別セグメントの概況は下記のとおりです。

#### 《遊技機事業》

パチンコ遊技機事業におきましては、今期主力タイトルであるサミーブランド『ぱちんこCR蒼天の拳』や、新たなゲーム性を搭載した『ぱちんこCR戦国乱舞 蒼き独眼』などの販売が堅調に推移した結果、パチンコ遊技機全体で、前年同期実績を上回る162千台の販売となりました。また、盤面販売比率の上昇や部材調達コストの低減等により、利益率が改善いたしました。

パチスロ遊技機事業におきましては、第2四半期に発売したサミーブランド『パチスロ交響詩篇エウレカセブン』の販売が当第3四半期においても引き続き堅調に推移いたしました。なお、当第3四半期においては主な新作タイトルの発売がなかったため、パチスロ遊技機全体では、前年同期実績を下回る22千台の販売となりました。また、パチンコ、パチスロ遊技機ともに販売価格の見直しを行った結果、利益率が改善いたしました。

以上の結果、売上高は574億10百万円（前年同期比39.0%増）、営業利益は160億53百万円（前年同期比152.5%増）となりました。

#### 《アミューズメント機器事業》

アミューズメント機器事業におきましては、施設運営者の投資効率向上と当社の長期安定収益確保を目的としたレベニューシェアモデル（ALL.Net P-ras）にて販売を行った、今期主力タイトルのビデオゲーム『ボードブレイク』の稼動が引き続き好調に推移いたしました。また、『スターホース2 フィフス エクспанション』や『WORLD CLUB Champion Football Intercontinental Clubs 2008-2009』などの利益率の高いCVTキット販売も堅調に推移いたしました。なお、当第3四半期は大型タイトルの発売を計画していないため、売上は前年同期実績を下回りましたが、利益は前年同期実績を上回りました。

以上の結果、売上高は159億49百万円（前年同期比4.6%減）、営業利益は54億45百万円（前年同期比244.5%増）となりました。

#### 《アミューズメント施設事業》

アミューズメント施設事業におきましては、個人消費の低迷等により、セガ国内既存店舗の売上高は、前年同期実績を下回る水準となりました。

厳しい経営環境を受け、国内においては、前期末から引き続き将来性・収益性の低い店舗の閉鎖を進めており、当第3四半期において、5店舗の閉店を行う一方、新規出店を2店舗行った結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は274店舗となりました。

以上の結果、アミューズメント施設事業における売上高は125億10百万円（前年同期比27.5%減）、営業損失は8億67百万円（前年同期は営業損失21億47百万円）となりました。

#### 《コンシューマ事業》

コンシューマ事業におきましては、家庭用ゲームソフト事業において、欧米市場向けタイトル『Mario & Sonic at the Olympic Winter Games』や、国内市場向け人気シリーズの最新作『ファンタシースターポータブル2』など、複数の主力タイトルの発売を行い、ゲームソフト販売本数は、米国378万本、欧州616万本、日本・その他138万本、合計1,132万本となり、前年同期実績を上回りました。

玩具販売事業におきましては、国内における販売が低調となったものの、海外では『爆丸』の販売が引き続き好調に推移いたしました。また、携帯電話・PC向けコンテンツ事業は、PC向けのゲーム配信を中心に堅調に推移し、アニメーション映像事業においては、アニメーション制作収入は前年同期実績を下回ったものの、アニメーション販売収入は海外の『爆丸』等が牽引し堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は453億12百万円（前年同期比32.5%増）、営業利益は96億9百万円（前年同期は営業利益2億69百万円）となりました。

所在地別セグメントの概況は下記のとおりです。

日本におきましては、アミューズメント施設事業において既存店売上が前年割れとなったものの、遊技機事業においてパチンコの販売台数が前年同期実績を上回り、売上高は1,108億94百万円（前年同期比16.6%増）となり、遊技機事業におけるパチンコ・パチスロ遊技機の販売価格の上昇や、コンシューマ事業の家庭用ゲームソフトタイトルの開発絞込み等により、営業利益は248億9百万円（前年同期比494.8%増）となりました。海外においては、コンシューマ事業における家庭用ゲームソフトの販売本数が前年同期実績を上回り、北米は、売上高103億60百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益10億8百万円（前年同期比862.3%増）、ヨーロッパは、売上高173億46百万円（前年同期比90.7%増）、営業利益30億25百万円（前年同期比277.4%増）となりました。

(2) 財政状態

(資産及び負債)

譲渡性預金の購入等により有価証券が298億93百万円増加した一方で、有形固定資産の減損や敷金・保証金の減少等により固定資産が70億14百万円減少いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ151億94百万円増加し、4,391億32百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結累計期間で四半期純利益を計上し、配当金の支払を実施したこと等により、当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ81億59百万円増加し、2,506億92百万円となりました。

(財務比率)

当第3四半期連結会計期間末における流動比率は、前連結会計年度末に比べ18.2ポイント減少しておりますが、276.8%と高水準を維持しております。

また、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント増加し、52.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、第2四半期連結会計期間末に比べ137億56百万円増加し、1,433億52百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益238億67百万円を計上し、第2四半期連結会計期間末に比べ仕入債務が144億24百万円増加した一方で、売上債権が287億56百万円増加したこと等により、当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは244億38百万円の収入（前年同期比171億28百万円の増加）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出21億55百万円及び投資有価証券の取得による支出8億86百万円等により、当第3四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは53億82百万円の支出（前年同期は88億46百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払による支出37億48百万円及び社債の償還による支出18億2百万円等により、当第3四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは54億76百万円の支出（前年同期は129億27百万円の支出）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は98億65百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、株式会社銀座を連結子会社化したことにより、下記設備が新たに当グループの設備となりました。

平成21年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
(株)銀座	本社工場 (愛知県 瀬戸市)	遊技機事業	遊技機 生産設備	1,478	392 (9,358.85)	284	2,154	41

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、機械及び装置、工具、器具及び備品等であります。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	283,229,476	283,229,476	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	283,229,476	283,229,476		

(注) 提出日現在の発行数には、平成22年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

当社は、会社法に基づき新株予約権を発行しております。

株主総会決議（平成18年6月20日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成21年12月31日）
新株予約権の数(個) (注) 1	430
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は100株であります。
新株予約権の目的となる株式の数(株)	43,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	4,235
新株予約権の行使期間	平成20年8月15日～平成22年7月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 4,745 資本組入額 2,373
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡する時は、当社取締役会の承認を得るものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は100株であります。

2 新株予約権の行使の条件は下記のとおりであります。

対象者は、権利行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位にあることを要する。ただし、地位の喪失が法令または当社もしくは当社子会社の定款、会社規程による場合、または次のないしに規定する場合はこの限りではない。

対象者たる当社の取締役、執行役員もしくは従業員がその地位を喪失した場合であっても、次のイ、ないしハ、に該当する場合には、当該対象者は、上記の規定にかかわらず、その地位喪失時に行使していなかった新株予約権の限度でこれを行使できる。

イ、その地位の喪失が任期満了または法令変更に伴う事由による退任に基づく場合

ロ、その地位の喪失が定年退職、事業の縮小等による解雇等の会社規程に基づく事由による場合または会社都合により当社子会社へ転籍した場合

ハ、その地位の喪失後、ただちに当社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位を取得した場合

対象者たる当社子会社の取締役、執行役員もしくは従業員がその地位を喪失した場合であっても、次のイ、ないしハ、に該当する場合には、当該対象者は、上記の規定にかかわらず、その地位喪失時に行使していなかった新株予約権の限度でこれを行使できる。

イ、その地位の喪失が任期満了または法令変更に伴う事由による退任に基づく場合

ロ、その地位の喪失が定年退職、事業の縮小等による解雇等の会社規程に基づく事由による場合または会社都合により当社または当社子会社へ転籍した場合

ハ、その地位の喪失後、ただちに当社または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位を取得した場合

新株予約権の質入その他の処分は認めないものとする。

その他、新株予約権の行使の条件は、対象者との間で締結する新株予約権割当契約書に定めるものとする。

### 3 組織再編成行為時の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編成行為」という）をする場合において、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編成対象会社」という）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、本新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

#### イ．交付する再編成対象会社の新株予約権の数

組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

#### ロ．新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類

再編成対象会社の普通株式とする。

#### ハ．新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数

組織再編成行為の条件等を勘案の上、決定する。

#### ニ．新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編成行為の条件等を勘案の上、調整した再編成後の払込金額に本新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

#### ホ．新株予約権を行使することができる期間

新株予約権割当契約書に定める本新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権割当契約書に定める本新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

#### ヘ．新株予約権の行使の条件

（注）2 に準じて決定する。

#### ト．譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の承認を要するものとする。

#### チ．再編成対象会社による新株予約権の取得事由

新株予約権割当契約書に準じて決定する。

株主総会決議（平成18年6月20日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成21年12月31日）
新株予約権の数(個) (注) 1	20,628
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は100株であります。
新株予約権の目的となる株式の数(株)	2,062,800
新株予約権の行使時の払込金額(円)	4,235
新株予約権の行使期間	平成20年8月15日～平成22年8月13日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 4,744 資本組入額 2,372
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡する時は、当社取締役会の承認を得るものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

(注) 1 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は100株であります。

2 新株予約権の行使の条件は下記のとおりであります。

対象者は、権利行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位にあることを要する。ただし、地位の喪失が法令または当社もしくは当社子会社の定款、会社規程による場合、または次の「ないし」に規定する場合はこの限りではない。

対象者たる当社の執行役員及び従業員がその地位を喪失した場合であっても、次のイ、ないしハ、に該当する場合には、当該対象者は、上記の規定にかかわらず、その地位喪失時に行使していなかった新株予約権の限度でこれを行使できる。

イ、その地位の喪失が任期満了または法令変更に伴う事由による退任に基づく場合

ロ、その地位の喪失が定年退職、事業の縮小等による解雇等の会社規程に基づく事由による場合または会社都合により当社子会社へ転籍した場合

ハ、その地位の喪失後、ただちに当社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位を取得した場合

対象者たる当社子会社の取締役、執行役員もしくは従業員がその地位を喪失した場合であっても、次のイ、ないしハ、に該当する場合には、当該対象者は、上記の規定にかかわらず、その地位喪失時に行使していなかった新株予約権の限度でこれを行使できる。

イ、その地位の喪失が任期満了または法令変更に伴う事由による退任に基づく場合

ロ、その地位の喪失が定年退職、事業の縮小等による解雇等の会社規程に基づく事由による場合または会社都合により当社または当社子会社へ転籍した場合

ハ、その地位の喪失後、ただちに当社または当社子会社の取締役、監査役、執行役員、相談役、顧問もしくは従業員の地位を取得した場合

新株予約権の質入その他の処分は認めないものとする。

その他、新株予約権の行使の条件は、対象者との間で締結する新株予約権割当契約書に定めるものとする。

3 組織再編成行為時の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編成行為」という）をする場合において、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編成対象会社」という）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、本新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- イ．交付する再編成対象会社の新株予約権の数  
組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- ロ．新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類  
再編成対象会社の普通株式とする。
- ハ．新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数  
組織再編成行為の条件等を勘案の上、決定する。
- ニ．新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編成行為の条件等を勘案の上、調整した再編成後の払込金額に本新株予約権の目的である株式の数に乗じて得られる金額とする。
- ホ．新株予約権を行使することができる期間  
新株予約権割当契約書に定める本新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権割当契約書に定める本新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- ヘ．新株予約権の行使の条件  
(注)2 に準じて決定する。
- ト．譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の承認を要するものとする。
- チ．再編成対象会社による新株予約権の取得事由  
新株予約権割当契約書に準じて決定する。

### (3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年12月31日		283,229		29,953		29,945

### (5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年9月30日の株主名簿により記載しております。

## 【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 31,311,100		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 249,762,800	2,497,628	同上
単元未満株式	普通株式 2,155,576		
発行済株式総数	283,229,476		
総株主の議決権		2,497,628	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が12,700株(議決権127個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) セガサミーホールディングス(株)	港区東新橋1-9-2	31,311,100		31,311,100	11.05
計		31,311,100		31,311,100	11.05

(注) 株主名簿上は、(株)セガが名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が140株(議決権1個)あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄に含まれております。

## 2 【株価の推移】

## 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	939	1,120	1,245	1,298	1,276	1,273	1,328	1,284	1,154
最低(円)	845	882	1,013	1,150	1,154	1,124	1,089	1,058	1,107

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	97,928	106,436
受取手形及び売掛金	3 85,975	3 80,468
有価証券	56,692	26,798
商品及び製品	6,436	7,656
仕掛品	7,843	2,914
原材料及び貯蔵品	28,319	30,971
その他	26,434	32,191
貸倒引当金	681	698
流動資産合計	308,948	286,740
固定資産		
有形固定資産		
土地	22,649	22,590
その他(純額)	1 39,557	1 42,525
有形固定資産合計	62,207	65,116
無形固定資産		
のれん	7,487	6,949
その他	5,974	6,292
無形固定資産合計	13,461	13,242
投資その他の資産		
投資有価証券	28,554	27,732
その他	30,839	35,466
貸倒引当金	4,879	4,360
投資その他の資産合計	54,514	58,838
固定資産合計	130,183	137,197
資産合計	439,132	423,938

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 52,862	3 51,298
短期借入金	6,178	5,467
未払法人税等	3,718	3,131
引当金	1,917	2,905
その他	46,941	34,390
流動負債合計	111,618	97,194
固定負債		
社債	45,527	52,834
長期借入金	6,672	6,740
退職給付引当金	11,826	10,873
役員退職慰労引当金	1,074	2,152
その他	11,721	11,610
固定負債合計	76,821	84,211
負債合計	188,440	181,405
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	171,080	171,082
利益剰余金	128,805	119,417
自己株式	73,691	73,685
株主資本合計	256,147	246,767
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,737	1,619
繰延ヘッジ損益	55	-
土地再評価差額金	5,966	5,966
為替換算調整勘定	17,303	16,865
評価・換算差額等合計	24,952	24,451
新株予約権	1,202	1,222
少数株主持分	18,295	18,994
純資産合計	250,692	242,532
負債純資産合計	439,132	423,938

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	309,018	285,336
売上原価	226,670	181,664
売上総利益	82,347	103,672
販売費及び一般管理費	<sub>1</sub> 85,104	<sub>1</sub> 74,809
営業利益又は営業損失( )	2,757	28,863
営業外収益		
受取利息	535	390
受取配当金	223	98
還付加算金	518	-
その他	1,277	667
営業外収益合計	2,554	1,156
営業外費用		
支払利息	675	592
持分法による投資損失	105	5
デリバティブ評価損	315	121
社債発行費	487	205
開発仕掛品処分損	789	-
為替差損	1,423	32
店舗解約違約金	-	662
その他	1,008	763
営業外費用合計	4,806	2,383
経常利益又は経常損失( )	5,009	27,636

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	580	485
貸倒引当金戻入額	38	104
関係会社株式売却益	382	29
原状回復費戻入益	524	669
株式譲渡契約解除に伴う解決金	240	-
製品自主回収費用戻入益	279	-
支払補償金戻入益	-	430
債務時効益	2	2
その他	145	254
<b>特別利益合計</b>	<b>2,191</b>	<b>2,313</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	36	99
減損損失	1,628	2,863
投資有価証券評価損	373	768
のれん一括償却額	2,434	-
関係会社株式売却損	-	653
訴訟関連損失	-	371
子会社整理損	-	1,157
希望退職関連費用	-	195
その他	1,485	1,320
<b>特別損失合計</b>	<b>5,958</b>	<b>7,428</b>
<b>税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )</b>	<b>8,776</b>	<b>22,520</b>
法人税、住民税及び事業税	3	3
法人税等還付税額	722	-
法人税等合計	1,464	5,455
少数株主利益	599	119
<b>四半期純利益又は四半期純損失( )</b>	<b>10,840</b>	<b>16,945</b>

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	108,571	130,941
売上原価	75,315	74,732
売上総利益	33,255	56,209
販売費及び一般管理費	1 28,434	1 27,026
営業利益	4,821	29,182
営業外収益		
受取利息	193	124
受取配当金	9	21
還付加算金	4	-
デリバティブ評価益	153	-
その他	237	195
営業外収益合計	598	341
営業外費用		
支払利息	234	195
持分法による投資損失	11	3
為替差損	1,345	114
店舗解約違約金	-	561
デリバティブ評価損	-	80
その他	352	202
営業外費用合計	1,944	1,158
経常利益	3,475	28,365

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	23	156
貸倒引当金戻入額	42	32
原状回復費戻入益	5	77
株式譲渡契約解除に伴う解決金	240	-
製品自主回収費用戻入益	279	-
債務時効益	2	2
関係会社株式売却益	-	29
その他	25	55
<b>特別利益合計</b>	<b>531</b>	<b>399</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	1	5
減損損失	71	2,863
投資有価証券評価損	124	451
のれん一括償却額	2,434	-
子会社整理損	-	785
希望退職関連費用	-	195
その他	863	596
<b>特別損失合計</b>	<b>3,494</b>	<b>4,897</b>
税金等調整前四半期純利益	513	23,867
法人税、住民税及び事業税	3 1,735	3 1,481
法人税等還付税額	0	-
<b>法人税等合計</b>	<b>1,735</b>	<b>1,481</b>
少数株主利益又は少数株主損失( )	63	883
<b>四半期純利益又は四半期純損失( )</b>	<b>1,286</b>	<b>23,268</b>

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	8,776	22,520
減価償却費	18,949	12,002
減損損失	1,628	2,863
アミューズメント施設機器振替額	5,648	2,978
遊技機レンタル資産振替額	50	9
固定資産売却損益( は益)	543	385
固定資産除却損	501	381
関係会社株式売却損益( は益)	382	624
子会社整理損	-	1,157
投資有価証券評価損益( は益)	373	768
投資事業組合運用損益( は益)	28	136
のれん償却額	3,894	678
貸倒引当金の増減額( は減少)	703	329
役員賞与引当金の増減額( は減少)	146	68
退職給付引当金の増減額( は減少)	657	952
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	42	1,078
賞与引当金の増減額( は減少)	1,376	1,090
受取利息及び受取配当金	759	489
支払利息	675	592
為替差損益( は益)	179	6
持分法による投資損益( は益)	105	5
売上債権の増減額( は増加)	7,399	7,743
たな卸資産の増減額( は増加)	3,704	2,332
仕入債務の増減額( は減少)	16,418	1,947
預り保証金の増減額( は減少)	404	811
その他	2,781	2,084
小計	19,832	30,187
利息及び配当金の受取額	965	390
利息の支払額	690	537
法人税等の支払額	12,766	16,365
法人税等の還付額	13,236	17,059
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,577	30,734

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	4,256	1,705
定期預金の払戻による収入	1,971	669
有価証券の取得による支出	899	3,195
有価証券の償還による収入	1,300	1,800
有形固定資産の取得による支出	10,890	6,224
有形固定資産の売却による収入	21,472	545
無形固定資産の取得による支出	2,258	1,393
無形固定資産の売却による収入	109	-
投資有価証券の取得による支出	1,568	1,917
投資有価証券の売却による収入	39	47
投資有価証券の償還による収入	2,505	-
投資事業組合への出資による支出	800	12
投資事業組合からの分配による収入	412	462
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	219
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	212	220
関係会社株式の取得による支出	597	834
貸付けによる支出	2,553	1,145
貸付金の回収による収入	334	525
敷金の差入による支出	822	201
敷金の回収による収入	3,270	2,176
事業譲渡による収入	-	2,001
その他	842	2,508
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,713</b>	<b>10,910</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	14,700	185
長期借入れによる収入	1,020	1,120
長期借入金の返済による支出	555	713
社債の発行による収入	30,462	10,294
社債の償還による支出	5,600	2,418
少数株主からの払込みによる収入	11	-
配当金の支払額	7,531	7,526
少数株主への配当金の支払額	2,383	304
その他	605	364
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>117</b>	<b>273</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,256	129
<b>現金及び現金同等物の増減額(は減少)</b>	<b>24,152</b>	<b>19,966</b>
現金及び現金同等物の期首残高	99,975	123,385
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	9	-
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	0	-
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>124,136</b>	<b>143,352</b>

## 【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。

## 【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)	
1	<p><b>連結の範囲の変更</b></p> <p>連結子会社の数 67社</p> <p>(1) 第1四半期連結会計期間 セガサミービジュアル・エンタテインメント(株)は新設分割により、連結子会社としております。また、(株)サミーシステムズは保有株式の売却により、Sammy Europe Limitedは会社清算により、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 第2四半期連結会計期間 Sega Amusements Singapore Pte. Ltd.は会社清算により、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(3) 当第3四半期連結会計期間 (株)銀座は株式取得により、爆丸有限責任事業組合は新規設立出資により、連結子会社としております。また、(株)メディア・トラストは保有株式の売却により、連結の範囲から除外しております。</p>
2	<p><b>持分法の適用範囲の変更</b></p> <p>持分法を適用した関連会社の数 10社</p> <p>(1) 第1四半期連結会計期間 mPoria Inc.は保有株式の売却により、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>(2) 当第3四半期連結会計期間 (株)エルテックスは株式取得により、持分法適用関連会社となりました。</p>
3	<p><b>会計方針の変更</b></p> <p>(1) 工事契約に関する会計基準の適用 請負工事並びに受注制作のソフトウェアに係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用していましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成19年12月27日企業会計基準第15号)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成19年12月27日企業会計基準適用指針第18号)を第1四半期連結会計期間から適用し、第1四半期連結会計期間に着手した契約から、進捗部分について成果の確実性が認められる請負工事並びに受注制作のソフトウェアについては工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の請負工事並びに受注制作のソフトウェアについては工事完成基準を適用しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) コンテンツ制作費処理の変更 当社子会社(株)セガを中心としたゲームソフト並びにアミューズメント機器のコンテンツ制作費は、その発生時に売上原価として処理(外注の場合には前渡金に計上し、検収時に売上原価処理)していましたが、第1四半期連結会計期間より製品化が承認されたものから仕掛品としてたな卸資産に計上し、連結会計期間末時において、予定販売数量のうち実績販売数量に相当する額を売上原価として処理することといたしました。 この変更の理由は、開発体制の見直し・強化に伴って、プロジェクトごとの開発段階における意思決定プロセスが明確になり、収益獲得の確実性をより適切に評価できる体制を再整備したことによるものであります。これにより、近年高額化傾向にあるコンテンツ制作費を収益と直接対応させ、期間損益をより適正に表示することができま。</p> <p>この変更により、たな卸資産の仕掛品が5,850百万円、有形固定資産のアミューズメント施設機器が57百万円それぞれ増加し、前渡金が1,202百万円、為替換算調整勘定が12百万円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は4,717百万円増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>

## 【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
(四半期連結損益計算書) (1)前第3四半期連結累計期間において区分掲記しておりました「還付加算金」(当第3四半期連結累計期間84百万円)は、金額が僅少となったため、当第3四半期連結累計期間より営業外収益の「その他」に含めることといたしました。 (2)前第3四半期連結累計期間において区分掲記しておりました「法人税等還付税額」(当第3四半期連結累計期間18百万円)は、金額が僅少となったため、当第3四半期連結累計期間より「法人税、住民税及び事業税」に含めることといたしました。

当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
(四半期連結損益計算書) 前第3四半期連結会計期間において区分掲記しておりました「還付加算金」(当第3四半期連結会計期間0百万円)は、金額が僅少となったため、当第3四半期連結会計期間より営業外収益の「その他」に含めることといたしました。

## 【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法 当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算出したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算出しております。
2 棚卸資産の評価方法 当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
3 固定資産の減価償却費の算定方法 定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
4 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

## 【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
税金費用の計算 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)			前連結会計年度末 (平成21年3月31日)		
1 有形固定資産の減価償却累計額 111,918百万円			1 有形固定資産の減価償却累計額 116,988百万円		
2 保証債務			2 保証債務		
被保証者	金額	内容	被保証者	金額	内容
(株)ディンプス	20百万円	銀行借入 保証	(株)ディンプス	133百万円	銀行借入 保証
オリックス・プレ ミアム(有)	51百万円	リース債務	オリックス・プレ ミアム(有)	100百万円	リース債務
			有限責任中間 法人電子認証 システム協議会	0百万円	リース債務
			(株)銀座	2,285百万円	売掛債権 保証
			Sega Shanghai & Co.,Ltd.	71百万円	銀行借入 連帯保証
3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理に ついては、手形交換日をもって決済処理しており ます。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機 関の休日であったため、次の四半期連結会計期間 末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含 まれております。 受取手形 4,065百万円 支払手形 1,473百万円 設備関係支払手形 13百万円			3		

## (四半期連結損益計算書関係)

## 第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)																																				
<p>1 販売費及び一般管理費の主なもの</p> <table> <tr><td>広告宣伝費</td><td>16,710 百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td>4,461</td></tr> <tr><td>給与手当</td><td>12,762</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>766</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td>259</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>1,176</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>151</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>15,450</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>691</td></tr> </table>	広告宣伝費	16,710 百万円	販売手数料	4,461	給与手当	12,762	賞与引当金繰入額	766	役員賞与引当金繰入額	259	退職給付費用	1,176	役員退職慰労引当金繰入額	151	研究開発費	15,450	貸倒引当金繰入額	691	<p>1 販売費及び一般管理費の主なもの</p> <table> <tr><td>広告宣伝費</td><td>14,366 百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td>4,037</td></tr> <tr><td>給与手当</td><td>10,941</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>801</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td>543</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>1,295</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>152</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>14,154</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>653</td></tr> </table>	広告宣伝費	14,366 百万円	販売手数料	4,037	給与手当	10,941	賞与引当金繰入額	801	役員賞与引当金繰入額	543	退職給付費用	1,295	役員退職慰労引当金繰入額	152	研究開発費	14,154	貸倒引当金繰入額	653
広告宣伝費	16,710 百万円																																				
販売手数料	4,461																																				
給与手当	12,762																																				
賞与引当金繰入額	766																																				
役員賞与引当金繰入額	259																																				
退職給付費用	1,176																																				
役員退職慰労引当金繰入額	151																																				
研究開発費	15,450																																				
貸倒引当金繰入額	691																																				
広告宣伝費	14,366 百万円																																				
販売手数料	4,037																																				
給与手当	10,941																																				
賞与引当金繰入額	801																																				
役員賞与引当金繰入額	543																																				
退職給付費用	1,295																																				
役員退職慰労引当金繰入額	152																																				
研究開発費	14,154																																				
貸倒引当金繰入額	653																																				
2	2 債務時効益は、未払費用に計上していた債務につき、時効成立により支払義務が消滅したことによるものであります。																																				
3 当第3四半期連結累計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。	3 同左																																				

## 第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日至平成21年12月31日)																																				
<p>1 販売費及び一般管理費の主なもの</p> <table> <tr><td>広告宣伝費</td><td>5,427 百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td>1,793</td></tr> <tr><td>給与手当</td><td>3,990</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>766</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td>182</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>408</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>57</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>5,307</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>476</td></tr> </table>	広告宣伝費	5,427 百万円	販売手数料	1,793	給与手当	3,990	賞与引当金繰入額	766	役員賞与引当金繰入額	182	退職給付費用	408	役員退職慰労引当金繰入額	57	研究開発費	5,307	貸倒引当金繰入額	476	<p>1 販売費及び一般管理費の主なもの</p> <table> <tr><td>広告宣伝費</td><td>6,564 百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td>1,660</td></tr> <tr><td>給与手当</td><td>3,553</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>587</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td>180</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>430</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>28</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>4,401</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td>344</td></tr> </table>	広告宣伝費	6,564 百万円	販売手数料	1,660	給与手当	3,553	賞与引当金繰入額	587	役員賞与引当金繰入額	180	退職給付費用	430	役員退職慰労引当金繰入額	28	研究開発費	4,401	貸倒引当金繰入額	344
広告宣伝費	5,427 百万円																																				
販売手数料	1,793																																				
給与手当	3,990																																				
賞与引当金繰入額	766																																				
役員賞与引当金繰入額	182																																				
退職給付費用	408																																				
役員退職慰労引当金繰入額	57																																				
研究開発費	5,307																																				
貸倒引当金繰入額	476																																				
広告宣伝費	6,564 百万円																																				
販売手数料	1,660																																				
給与手当	3,553																																				
賞与引当金繰入額	587																																				
役員賞与引当金繰入額	180																																				
退職給付費用	430																																				
役員退職慰労引当金繰入額	28																																				
研究開発費	4,401																																				
貸倒引当金繰入額	344																																				
2	2 債務時効益は、未払費用に計上していた債務につき、時効成立により支払義務が消滅したことによるものであります。																																				
3 当第3四半期連結会計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。	3 同左																																				

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金勘定	現金及び預金勘定
103,796	97,928
有価証券	有価証券
27,197	56,692
計	計
130,994	154,621
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	預入期間が3ヶ月を超える定期預金
4,858	8,075
取得日から償還日までの期間が3ヶ月を超える有価証券	取得日から償還日までの期間が3ヶ月を超える有価証券
1,999	3,193
現金及び現金同等物	現金及び現金同等物
124,136	143,352

## (株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	283,229,476

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	31,313,340

## 3 新株予約権等に関する事項

会社名	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)	当第3四半期 連結会計期間末残高 (百万円)
提出会社			1,071
連結子会社			130
合計			1,202

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年5月15日 取締役会	普通株式	3,778	15	平成21年3月31日	平成21年6月3日	利益剰余金
平成21年10月30日 取締役会	普通株式	3,778	15	平成21年9月30日	平成21年12月2日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

四半期連結財務諸表への影響額に重要性がないため、記載を省略しております。

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	遊技機事業 (百万円)	アミューズメント 機器事業 (百万円)	アミューズメント 施設事業 (百万円)	コンシューマ 事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	41,037	15,543	17,240	34,079	670	108,571		108,571
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	258	1,172	8	118	259	1,817	(1,817)	
計	41,296	16,715	17,249	34,198	929	110,388	(1,817)	108,571
営業利益 (又は営業損失)	6,357	1,580	2,147	269	60	6,119	(1,297)	4,821

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分をベースに、製品の種類・販売市場の類似性等に基づき、5つのセグメントに区分しております。

## 2 各事業区分の主要製品及び事業内容

事業区分	主要製品及び事業内容
遊技機事業	パチスロ遊技機及びパチンコ遊技機の開発・製造・販売、周辺機器の開発・製造・販売・メンテナンス、遊技場の店舗設計等
アミューズメント機器事業	アミューズメント施設用ゲーム機の開発・製造・販売
アミューズメント施設事業	アミューズメント施設の開発・運営・レンタル・保守業務
コンシューマ事業	ゲームソフトウェアの開発・販売、玩具等の開発・製造・販売、携帯電話等を通じたエンタテインメントコンテンツの企画販売、アニメーション映画の企画・制作・販売
その他事業	情報提供サービス業、その他

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	遊技機事業 (百万円)	アミューズメント 機器事業 (百万円)	アミューズメント 施設事業 (百万円)	コンシューマ 事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	57,336	15,147	12,499	45,275	682	130,941		130,941
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	73	801	11	37	220	1,145	(1,145)	
計	57,410	15,949	12,510	45,312	903	132,087	(1,145)	130,941
営業利益 (又は営業損失)	16,053	5,445	867	9,609	72	30,312	(1,130)	29,182

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分をベースに、製品の種類・販売市場の類似性等に基づき、5つのセグメントに区分しております。

## 2 各事業区分の主要製品及び事業内容

事業区分	主要製品及び事業内容
遊技機事業	パチスロ遊技機及びパチンコ遊技機の開発・製造・販売、遊技場の店舗設計等
アミューズメント機器事業	アミューズメント施設用ゲーム機の開発・製造・販売
アミューズメント施設事業	アミューズメント施設の開発・運営・レンタル・保守業務
コンシューマ事業	ゲームソフトウェアの開発・販売、玩具等の開発・製造・販売、携帯電話等を通じたエンタテインメントコンテンツの企画販売、アニメーション映画の企画・制作・販売
その他事業	情報提供サービス業、その他

3 当社子会社(株)セガを中心としたゲームソフト並びにアミューズメント機器のコンテンツ制作費は、その発生時に売上原価として処理(外注の場合には前渡金に計上し、検収時に売上原価処理)していましたが、第1四

半期連結会計期間より製品化が承認されたものから仕掛品としてたな卸資産に計上し、連結会計期間末時において、予定販売数量のうち実績販売数量に相当する額を売上原価として処理することといたしました。この変更の理由は、開発体制の見直し・強化に伴って、プロジェクトごとの開発段階における意思決定プロセスが明確になり、収益獲得の確実性をより適切に評価できる体制を再整備したことによるものであります。これにより、近年高額化傾向にあるコンテンツ制作費を収益と直接対応させ、期間損益をより適正に表示することができます。

## 前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	遊技機事業 (百万円)	アミューズメント 機器事業 (百万円)	アミューズメント 施設事業 (百万円)	コンシューマ 事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	106,271	49,963	54,409	96,015	2,358	309,018		309,018
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	680	2,835	13	201	776	4,507	(4,507)	
計	106,951	52,798	54,422	96,216	3,135	313,525	(4,507)	309,018
営業利益 (又は営業損失)	5,292	6,221	4,970	5,647	296	1,193	(3,950)	2,757

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分をベースに、製品の種類・販売市場の類似性等に基づき、5つのセグメントに区分しております。

## 2 各事業区分の主要製品及び事業内容

事業区分	主要製品及び事業内容
遊技機事業	パチスロ遊技機及びパチンコ遊技機の開発・製造・販売、周辺機器の開発・製造・販売・メンテナンス、遊技場の店舗設計等
アミューズメント機器事業	アミューズメント施設用ゲーム機の開発・製造・販売
アミューズメント施設事業	アミューズメント施設の開発・運営・レンタル・保守業務
コンシューマ事業	ゲームソフトウェアの開発・販売、玩具等の開発・製造・販売、携帯電話等を通じたエンタテインメントコンテンツの企画販売、アニメーション映画の企画・制作・販売
その他事業	情報提供サービス業、その他

## 当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	遊技機事業 (百万円)	アミューズメント 機器事業 (百万円)	アミューズメント 施設事業 (百万円)	コンシューマ 事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	125,647	33,119	41,429	82,927	2,212	285,336		285,336
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	216	2,023	28	186	677	3,132	(3,132)	
計	125,864	35,142	41,458	83,114	2,890	288,469	(3,132)	285,336
営業利益 (又は営業損失)	26,950	4,707	644	1,416	347	32,777	(3,913)	28,863

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分をベースに、製品の種類・販売市場の類似性等に基づき、5つのセグメントに区分しております。

## 2 各事業区分の主要製品及び事業内容

事業区分	主要製品及び事業内容
遊技機事業	パチスロ遊技機及びパチンコ遊技機の開発・製造・販売、遊技場の店舗設計等
アミューズメント機器事業	アミューズメント施設用ゲーム機の開発・製造・販売
アミューズメント施設事業	アミューズメント施設の開発・運営・レンタル・保守業務
コンシューマ事業	ゲームソフトウェアの開発・販売、玩具等の開発・製造・販売、携帯電話等を通じたエンタテインメントコンテンツの企画販売、アニメーション映画の企画・制作・販売
その他事業	情報提供サービス業、その他

- 3 当社子会社(株)セガを中心としたゲームソフト並びにアミューズメント機器のコンテンツ制作費は、その発生時に売上原価として処理（外注の場合には前渡金に計上し、検収時に売上原価処理）していましたが、第1四半期連結会計期間より製品化が承認されたものから仕掛品としてたな卸資産に計上し、連結会計期間末時において、予定販売数量のうち実績販売数量に相当する額を売上原価として処理することといたしました。この変更の理由は、開発体制の見直し・強化に伴って、プロジェクトごとの開発段階における意思決定プロセスが明確になり、収益獲得の確実性をより適切に評価できる体制を再整備したことによるものであります。これにより、近年高額化傾向にあるコンテンツ制作費を収益と直接対応させ、期間損益をより適正に表示することができます。
- この変更により、当第3四半期連結累計期間における営業費用は「アミューズメント機器事業」が900百万円、「アミューズメント施設事業」が96百万円、「コンシューマ事業」が3,720百万円それぞれ減少しております。この結果、「アミューズメント機器事業」、「コンシューマ事業」の営業利益がそれぞれ同額増加し、「アミューズメント施設事業」の営業損失が同額減少しております。

## 【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	90,079	8,991	8,550	949	108,571		108,571
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,025	858	544	84	6,512	(6,512)	
計	95,104	9,849	9,095	1,033	115,083	(6,512)	108,571
営業利益	4,171	104	801	41	5,118	(297)	4,821

(注) 1 国又は地域は地理的の近接度により区分しております。

2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米・・・米国

(2) ヨーロッパ・・・英国、フランス、ドイツ他

(3) その他・・・オーストラリア、中国、台湾他

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	103,104	9,707	16,793	1,336	130,941		130,941
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,790	652	553	298	9,294	(9,294)	
計	110,894	10,360	17,346	1,634	140,236	(9,294)	130,941
営業利益	24,809	1,008	3,025	234	29,078	103	29,182

(注) 1 国又は地域は地理的の近接度により区分しております。

2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米・・・米国

(2) ヨーロッパ・・・英国、フランス、ドイツ他

(3) その他・・・オーストラリア、中国、台湾他

## 前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	255,934	25,956	24,015	3,111	309,018		309,018
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,342	3,125	1,825	682	20,975	(20,975)	
計	271,276	29,082	25,841	3,793	329,994	(20,975)	309,018
営業利益 (又は営業損失)	700	595	270	264	1,300	(1,456)	2,757

(注) 1 国又は地域は地理的の近接度により区分しております。

2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米・・・・・・米国

(2) ヨーロッパ・・・・英国、フランス、ドイツ他

(3) その他・・・・・・オーストラリア、中国、台湾他

## 当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	244,126	16,610	22,167	2,432	285,336		285,336
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,161	2,122	1,216	854	15,354	(15,354)	
計	255,287	18,732	23,384	3,286	300,691	(15,354)	285,336
営業利益 (又は営業損失)	27,866	218	1,073	189	28,910	(46)	28,863

(注) 1 国又は地域は地理的の近接度により区分しております。

2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米・・・・・・米国

(2) ヨーロッパ・・・・英国、フランス、ドイツ他

(3) その他・・・・・・オーストラリア、中国、台湾他

## 【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	北米	ヨーロッパ	その他	計
海外売上高(百万円)	13,099	8,533	4,626	26,258
連結売上高(百万円)				108,571
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	12.1	7.9	4.2	24.2

- (注) 1 国又は地域は地理的近接度により区分しております。  
 2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米・・・米国  
 (2) ヨーロッパ・・・英国、イタリア、フランス、ドイツ他  
 (3) その他・・・中国、台湾他  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域に対する売上高であります。

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	北米	ヨーロッパ	その他	計
海外売上高(百万円)	11,847	17,411	2,868	32,127
連結売上高(百万円)				130,941
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.0	13.3	2.2	24.5

- (注) 1 国又は地域は地理的近接度により区分しております。  
 2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米・・・米国  
 (2) ヨーロッパ・・・英国、イタリア、フランス、ドイツ他  
 (3) その他・・・中国、台湾他  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域に対する売上高であります。

## 前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	北米	ヨーロッパ	その他	計
海外売上高(百万円)	33,764	24,871	9,197	67,833
連結売上高(百万円)				309,018
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.9	8.1	3.0	22.0

- (注) 1 国又は地域は地理的近接度により区分しております。  
 2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米・・・・・・米国  
 (2) ヨーロッパ・・・・英国、イタリア、フランス、ドイツ他  
 (3) その他・・・・・・中国、台湾他  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域に対する売上高であります。

## 当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	北米	ヨーロッパ	その他	計
海外売上高(百万円)	23,397	24,266	6,441	54,105
連結売上高(百万円)				285,336
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	8.2	8.5	2.3	19.0

- (注) 1 国又は地域は地理的近接度により区分しております。  
 2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米・・・・・・米国  
 (2) ヨーロッパ・・・・英国、イタリア、フランス、ドイツ他  
 (3) その他・・・・・・中国、台湾他  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域に対する売上高であります。

## (企業結合等関係)

## 当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

## 1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
917.74円	882.47円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	250,692	242,532
純資産の部から控除する金額(百万円)	19,497	20,216
(うち新株予約権(百万円))	1,202	1,222
(うち少数株主持分(百万円))	18,295	18,994
普通株式に係る純資産額(百万円)	231,194	222,316
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(千株)	251,916	251,923

## 2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )等

## 第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額( ) 43.03円	1株当たり四半期純利益金額 67.27円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	10,840	16,945
普通株式に係る四半期純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	10,840	16,945
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式の期中平均株式数(千株)	251,932	251,919
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## 第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額( ) 5.11円	1株当たり四半期純利益金額 92.37円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	1,286	23,268
普通株式に係る四半期純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	1,286	23,268
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式の期中平均株式数(千株)	251,929	251,917
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## (重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

### (1) 訴訟について

サミー株式会社が製造販売したパチスロ遊技機「北斗の拳」に対して、アルゼ株式会社（現 株式会社ユニバーサルエンターテインメント）から特許第3069092号及び特許第3708056号の2件の特許権を侵害しているとして、平成17年12月27日付で210億円の損害賠償請求等を求める訴訟の提起を受けました。その後、平成19年5月22日付で東京地方裁判所は同社の請求を棄却する判決を下しました。同社はこの判決を不服として、平成19年6月4日付で知的財産高等裁判所に控訴し、現在審理中であります。

なお、サミー株式会社は本件訴訟の対象権利に対して、無効審判請求を提起しております。

特許第3069092号について、特許庁は平成19年10月2日付で特許を一部無効とする判断を下し、知的財産高等裁判所において審決取消について審理中でしたが、同社が訂正審判申立をしたため、平成20年3月21日付で審判官（特許庁）へ差し戻されております。その後、特許庁は平成20年11月19日（12月1日送達）、訂正を認め、本件審判の請求は成り立たないとの審決を下しました。サミー株式会社は特許庁が下した審決の取消を求めて、平成20年12月11日付で知的財産高等裁判所に訴訟し、現在審理中であります。

特許第3708056号について、特許庁は平成18年10月17日付で特許を無効とする判断を下し、知的財産高等裁判所において審決取消について審理中でしたが、平成19年11月14日付にて同社の審決取消の訴えを棄却しました。さらに同社は平成19年11月27日付で最高裁判所に上告及び上告受理の申立を行い審理中でしたが、平成20年5月8日付にて同社の上告を棄却し、上告を受理しない旨の決定がなされたため、無効が確定しています。

サミー株式会社は、本件訴訟の対象となる同社の特許については、権利の侵害にはあたらないものと確信しておりますが、訴訟の推移如何によっては当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 中間配当について

第6期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）中間配当につきましては、平成21年10月30日開催の取締役会において、平成21年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	3,778百万円
1株当たりの金額	15円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成21年12月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月13日

セガサミーホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 泉 敏

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 穴 戸 通 孝

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 村 宏 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているセガサミーホールディングス株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、セガサミーホールディングス株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 追記情報

重要な後発事象に記載のとおり、会社は重要な経営施策に関する事項を決定している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月12日

セガサミーホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 泉 敏

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 穴 戸 通 孝

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 村 宏 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているセガサミーホールディングス株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、セガサミーホールディングス株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 追記情報

四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されているとおり、第1四半期連結会計期間からゲームソフト並びにアミューズメント機器に係るコンテンツ制作費の会計方針を変更している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。